

平成 30 年 8 月 10 日

平成 30 年 7 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキスト関連と封筒紙製品やコミケ関連の順調な動きが見られ、前年を上回った。

（前年比 103.0%）

巻取は生損保約款関連の仕事が前月に引続き動きが見られたが、チラシ関連の仕事の減少もあり前年をやや下回った。

（前年比 98.5%）

再生紙は平判、巻取共に官公庁関連の動きが鈍く、特に巻取大口物件は前年を大きく下回った。

（前年比 再生上質平判 94.6% 再生上質巻取 80.5% 再生上質計 87.2%）

（前年比 印刷用紙 A 102.1%）

<A2 コート>

平判はマットを中心に株主総会、企業の C S R レポート等で動きがあったが、部数の減少傾向があり前年を下回った。

巻取は自動車、不動産関連、化粧品カタログ等で動きがあり、前年を上回った。

（前年比 平判 97.5% 巻取 104.9% 全体 98.9%）

<A3 コート>

平判の小ロットは減少したが、定期案件を中心に自動車、学習塾、量販店関連等での動きが堅調で前年並みとなった。

（前年比 平判 86.5% 巻取 111.9% 全体 100.9%）

<ノーカーボン紙>

巻取は年賀状申込帳票で動きがあった他、生損保関連でも動きはあったが、全体的に低調に推移し前年を大きく下回った。

平判は金融関連の動きがあり前年を上回った。

（前年比 平判 106.4% 巻取 88.9%）

<上質フォーム>

生損保関連で多少動きはあったが官公庁関連の動きはなく、新規案件等の目立った動きもなかった為、前年を大きく下回った。

（前年比 81.9%）

<包装用紙>

特殊両更は学校関係、役所関係の封筒の需要はあったものの、低調な動きに歯止めがかからず昨年を下回った。

(前年比 96.0%)

軽包装は製本会社向けの雑包装用途が好調で前年を上回った。

(前年比 103.4%)

片艶晒は専門店の夏場セール用手提袋と冷菓の包装用途で動きがあったが、前年をわずかに下回った。

(前年比 99.4%)

両更晒は高額商品向けの手提袋用途で一部動きはあったが、その他封筒用途等、全体的に動きが低調で前年を大幅に下回った。

(前年比 73.3%)

包装紙全体でも 94.4%と前年を下回った。

<板紙>

猛暑の影響もありアイスなど冷菓は好調であった。POP 関連の特殊板紙は低調であったが、定期品の日用雑貨や行楽地の土産物は堅調で全体的には前年を上回った。

(前年比 106.2%)